

平成28年度 学校自己評価（職員による中間評価）

25 長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による中間評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 回答総数 73

評価項目	評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。		学年行事「能登臨海実習」「職場体験学習/キャリアプランニング」「イングリッシュキャンプ」「集中学習」を実施した。(中学)	学習成果の発表のあり方について検討したい。「卒業研究」の指導を行い、高校の一人一研につながる研究としていきたい。(中学)	37	34	1		87.5
		ただの職場体験とせず、年間を通して生き方を学ぶ時間として、外部と関わりながら進めた。(中2)	体験終了で終わりとし、志を立てることを目指す。(中2)					
		文理それぞれの進路講演会を実施。社会で活躍する本校OBの講演を聴き、進路に対する意識を深めることができた。(高1)	文理選択と2・3年次への繋ぎの検討。(高1)					
		「大学相談会」「東大研究室見学会」「東北サイエンス交流会」「屋代ミニ大学」等の企画を計画実行できた。(高2)	さらに生徒の進路意識を高める日常での取り組みの工夫が必要。(高2)					
		例年同様に、朝、放課後、土曜補習を行い、夏期休業中には通常補習と2次対策補習を行った。学習合宿は一泊増やして実施した。(高3)	補習への参加や多目的室での自習等を通じ集団として受験に取り組んでいくよう指導する。(高3)					
進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。		学年通信、学年PTAを通してキャリアに関する情報を発信した。参観日に、保護者にキャリアインタビューを行った。(中学)	学年通信、学年PTAに加えて、進路通信で、必要な情報を多く発信していく。(中学)	45	26	1		90.3
		新しい大学入試制度など折に触れて話している。(中2)						
		学年通信を中心に学校行事・進路選択や学習に関わる情報の提供ができた。(高1)	より内容を充実させたい。(高1)					
		学年通信や、保護者説明会を利用して進路情報の提供を行えた。(高2)	三者での情報の共有・理解が必要。(高2)					
		節目節目で係や外部講師より話をし、意識の向上に努めた。また、定期的に学年通信を発行し、必要な情報を届けている。(高3)	模試、センター試験、個別試験に関する情報を更にきめ細かく発信していく。(高3)					
全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を広げることができたか。	キャリア教育	考査前に質問講座や学習会の場を設けた。学力推移調査の見返し補習を行った。(中学)	模試受験を勧め、結果を踏まえ、個に応じた学力定着の指導。(中学)	33	37	2		85.8
		目の前の学習の内容だけでなく、高校での学習内容・方法へのつながりを意識できるよう指導してきた。(中1)						
		科学リテラシーを通して教科の枠を超えた学習を行っている。(中2)	前期の取り組みを継続させる。(中2)					
		テスト前の補習体制の充実をはかった。進路講演会、文理適性検査を実施して、大学選択や職業選択の視野を広げるように努めた。(高1)	2年次以降の進路指導を通じて、全教科にわたる総合的学力の養成を目指すよう指導していく。(高1)					
		学年会での各教科の取り組みの共有、生徒の学力状況・進路目標の共有と対策を検討した。(高2)	高い志を持たせながら学力の向上を図りたい。(高2)					
		科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し目標を下げないように指導している。(高3)	模試の結果をふまえつつ、あきらめずに最後まで頑張らせたい。(高3)					
生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。		各教科では、考査後に補習を設け学力定着を行うとともに、課題の課し方について検討し、個別の相談や指導を行った。(中学)	複数教科で学力不振の生徒への支援と上位生への指導。(中学)	32	37	3		85.1
		学力と性格・生活のつながりはつかめているが、学力向上には至っていない。(中2)	個別指導を行う。(中2)					
		「自律ノート」を用いて、毎日の生活を記録する習慣をつけさせ、生徒の実態を把握・分析し、面談指導等で活用した。(高1)	生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。(高1)					
		「スタディーサポート」や各考査の結果等を利用し、集団と個々への指導に活用した。考査前の居残り学習も定着してきた。(高2)	学力差がさらに拡がり、家庭での学習時間の確保と「学習の質」の改善を図りたい。(高2)					
		「学習計画・実績表」を毎日記録し、提出させることで、生徒の家庭学習の実態を把握・分析し、面談等で指導に利用した。また考査ごとの準備計画表を記入させ、計画的な試験準備ができるようにした。また、生徒同士の質問や教え合う機会を増やし、学習意欲を喚起した。(高2)	生徒の学習実態と成績の変化を継続的に把握し分析したい。(高2)					
		個人面談や生活実態調査で生徒の様子を把握し、模試分析を通して各科目の学力を把握し、生徒の指導に対処してきた。(高3)	生徒のメンタルな部分に配慮しつつ、学力の伸張を図ってきたい。(高3)					

評価項目	評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
学習指導	魅力ある、質の高い授業を提供できるよう教科指導の研鑽に努めることができたか。	教員間の授業公開を行い、フィードバックシートで授業者への還元を行った。(委員会) 学年会で、各教科の授業の進め方や課題の質量などについて情報交換をし、改善を図ってきた。(中1)	11月に教員間の授業公開週間を実施する。教科を超えてその取り組みを共有し授業研究に役立てられるようにする。(委員会)	38	31	4		86.6
	生徒の学習実態調査(家庭学習時間など)の結果を分析・研究することができたか。また、分析・研究の結果を指導に活かすことができたか。	スタディーサポートを行い、生徒の生活実態の把握・分析を面談などで活用した。(委員会) 学習時間調査を日常的に実施し、データ化し示すことで生徒への学習習慣づけに役立てた。(高1・高2)	学習実態調査を継続し、分析した内容を共有する。(委員会) 模試の結果などを参考にしながら、教師・生徒・保護者が共に現状を把握し、見直しをもって学習・支援が行えるようにする。(中1) 三者懇談会等で更に意識化させたい。(高1・高2)	27	37	9		81.2
	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	6月は自転車事故が相次いだが重大な事故は起きてない。事故の多くはもらい事故や事故を回避しようとして起きた転倒である。不注意や乱暴な運転による事故は減っている。(係)	HRや学年通信を通じて更なる注意を促すとともに、時間的にもゆとりのある生活習慣を身につけるように指導していきたい。(係)					
生徒指導	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	担任を通してHRで啓発に努めた。問題行動として指導する案件はなかった。(係)	SNS等での悪口等の中傷は問題が明らかにならないものの存在している。未然防止の働きかけに力をいれたい。(係)	38	31	4		86.6
		生徒の個々の違いや特質をお互いが理解するよう、機に応じてSHRや道徳の時間に指導をしてきた。(中1)						
		トラブルに早めに対応している。(中2)	引き続きアンテナを高くしていく。(中2)					
		安心安全な学校生活を送るために、学年全体でロッカーの施錠を徹底し、盗難等の未然防止に努めた。(高1)	指導を継続していく。(高1)					
生徒会	質実剛健の気風を大切にしてい、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導支援ができたか。	最大行事である鳩祭は、全生徒会員の協力により成功した。60周年記念の企画も実現し、教職員の支援も十分に行われた。(係)	新役員を中心に、来年度の活動や行事の企画・立案などに時間をかけ、入念な話し合いを行いたい。(係)	48	23	1		91.3
		委員会活動や鳩祭における中高の協力体制もほぼ確立された。(係)	中高でより一体感のある活動ができるとさらに良い。(係)					
		自主的な活動ができるよう配慮している。(中2)	引き続きに向けて意識を高めていく。(中2)					
生徒一人ひとりが、生き生きとした活動を行うことができたか。	日々の委員会活動は、生徒と顧問が連絡を取り合い、順調に進められている。(係)							
校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	トイレ掃除がやや不十分であった。(係)	トイレの美化に力を入れたい。(係)	26	40	7		81.5
		手ぬぐいの定着など声をかけてきている。(中2)						
人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	人権教育職員研修を実施。講師のエネルギッシュな講演で、充実した研修ができた。LGBTの問題にも触れてもらった。(係)	人権教育講演会(10/11)・人権教育LHR(2/2)を有意義なものにする。(係)	34	35	3		85.8
			自分とは違う立場の人や社会的に弱い立場の人への思いを育てるため、特別支援学校などとの交流を行っていく。(中1)					
		道徳などを通して行うことができた。(中2)	引き続き意識を高めていく。(中2)					
学校運営	新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育およびIV期SSHのプログラムについて研究を深め実践することができたか。	SSH4期1年目として、一人一研究(選抜生・理数科)の充実と新規科目一人一研究α(一貫生)の実施。また、次年度科目、課題探究(2年普通科)の検討を始めた。(係・委員会)	一人一研究・一研究αのクラス・全体発表会の充実および課題探究の内容、発表方法の計画・立案。(係・委員会)	36	29	6	1	84.7
		次学年につながる計画を立てていきたい。(中2)						
		一貫生・選抜生の交流、また普通科・理数科の交流などを通じて学年の一体感を高め、切磋琢磨していく意識を持たせる指導を行った。2年次以降の講座編成について早い段階から議論を進め研究・検討を行った。(高1)	2年次のSSHプログラム「課題探究」についての議論をさらに深め、内容を検討し決定していく。(高1)					
	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	昨年度立ち上げたSSHポータルサイトにおいてSSH活動を紹介し、活動写真をアルバム化した。(係・委員会) HPのハトニワ等を通じ、事あるごとに情報を発信してきた。職員の協力体制も広がりを見せ、より多分野にまたがる内容となりつつある。(係) 学年PTAや能登臨海実習説明会、または学年通信によって、本校の目指す姿や方針など、保護者への説明をしてきた。また、行事の様子などを随時HPにアップした。(中1) 学年通信等で発信できた。(全学年)	SSHのポータルサイトのさらなる充実。(係・委員会) 引き続き協力体制の拡大や情報収集に努め、小中学生や一般の方々も意識したより充実した情報発信に努めたい。(係) さらに充実した内容にしたい。(全学年)	42	26	4		88.2

指標は、A(4点), B(3点), C(2点), D(1点)として最高100点となるように換算しました。〔換算式〕 $25 \times (4点 \times Aの数 + 3点 \times Bの数 + 2点 \times Cの数 + 1点 \times Dの数) \div 総数$